



回はわざわざ高知での明德義塾文化祭に足をはこんで下さり、ステージで演奏をしてくれました。とても気さくな方たちで話やすく、その澄んだ歌声が校舎中に響きました。

そして逆ミスコン。男子が女装をしてミスコンを行なうというもの。女装っ子によるその熾烈な戦いは見ものでした。各クラスから出場者一人を選出し、服装やメイクは全てそのクラスにおまかせの無制限。各クラスの個性が表れていました。

和太鼓部による演奏もあったのですが、部員が全員留学生であるという点が国際色豊かな明德義塾の特徴であると言えるでしょう。

去年に引き続き国際協力の一環として、フェアトレードを文化祭で行いました。去年はただフェアトレード商品を販売しただけでしたが、今年は高知大学国際協力団体「すきっぷ」のメンバーと、フェアトレードによるコーヒーとお茶を使用したフェアトレードカフェを開きました。

「すきっぷ」との交流は去年から始まり、今年行ったこのカフェは私達にとってとても有意義なものであり、お互いの関係を強く意識するきっかけになったと思います。これからも良好な関係を保てるように交流していきたいと思います。

今紹介した以外にもたくさんの取り組みがありました。

着物や袴を着て、お客さんに本格的にお茶を振るまうお茶会。明徳義塾と関わりの深い養護学校「光の村」さんによるパンの販売。

ちなみに私達実行委員は「光の村」さんとともにパン作りや文旦狩りなどをして交流を行いました。

このように「光の村」さんや「すきっぷ」のメンバー、「ボクん家」の二人など今回はたくさんのゲストが文化祭を盛り上げるために協力してくれました。

より濃密に、より楽しく。

そのためにたくさんの人の協力がありました。

今回の文化祭が大成功を収めたのは、決して実行委員会だけの力ではありませんでした。

文化祭を終えて

この文化祭を通して学んだことはたくさんありました。

まず、何かをやり遂げるということは多少の自己犠牲は必要であるということです。

本来自分のために使うことのできた時間はほとんどが文化祭準備のために消えていきました。

しかし、それは仕方のないこと、自分の趣味のために時間を裂くことができない憤りは、文化祭をやり終えるとすっかりなくなっていました。

むしろ今では仕事が無くなった寂寥感で一杯です。ですが達成感はその以上に僕の心を満たしています。

友達に「今回の文化祭は今までで一番良かった」と言われたときには跳び上がる気持ちを押さえつけなければならないほどにうれしかったです。

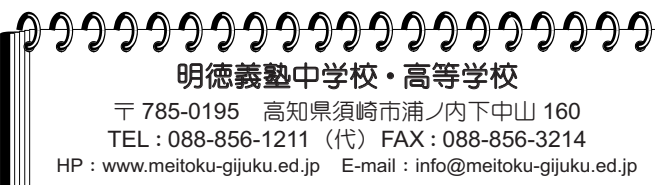
自分が一生懸命に取り組んだものを褒めてもらえることは確かにうれしいのですが、それ以上に楽しんでもらうことができたという事実がもっとうれしかったです。

来年は・・・

私たち五年生（高校2年生）は来年受験戦争の真っ最中であり、残念ながら文化祭に参加することができません。

来年の文化祭は今の四年生と、新しく入学してくる新入生によって築かれるはずです。今年の反省を生かし、来年はもっと良いものにして欲しいです。

「時間があればもう一度文化祭に参加したい」などという浅はかな考えを抱く明德義塾元文化祭実行委員長、菊地翔でした！



明德義塾では在校生の9割(3割の留学生を含む)が寮で共同生活をしています。その寮生活を通して、「他人と共生する能力」を、生徒一人ひとりが身につけ、その生徒の一生の宝となります。

また、その「能力」を発揮して、日本全国で有名なスポーツ活動に加えて、ここで紹介されたような文化系の活動・部活動も非常に盛んです。